

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者が尊厳を保ちゆとりを持って、ゆったり・ゆっくと生活をおくれるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアリビング、休憩室等に理念や理念言葉を貼り職員の眼に入り、常に心ずるようにしている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月発行の「ゆり苑だより」に記載して、事業所での様子と共に、事業所の理念を知って頂けるよう努力している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣組の道路愛護や地域の会合に参加。近所の子供たちが事業所前道路にてボール遊びをしたり、時々事業所内に来てダンスを披露してくれる。常日頃から子供たちの声が聞こえる環境である。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	道路愛護の草取りには積極的に参加している。また近所の人がお花を届けてくれたりと地元の人にお世話になっている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中でいつも市役所や地域代表の方に協力できる事があれば、と話している。	○	もしもの時の非難場所として利用して頂けるよう近所・隣組に周知したい。(今までもお知らせしているのだが…)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価発表後は、評価全体を全員で、カンファレンス時に再度話し合い、改善点があればすぐに取り組み、改善結果の検証をしている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月の1度の会議では、出席委員の意見や質問を出きる事なら即時に、即時に出来ない事は出来得る限り早急に対応している。貴重な意見や質問はサービス向上には不可欠と考えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	うきはブロックグループホーム部会には必ず出席し、市役所の要望、意見を聞きサービスに反映するようにしている。また事業所からの質問等もしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修機会があれば必ず出席している。職員にはカンファレンス等で伝えている。	○	現在、成年後見制度利用の利用者がいるが、新人職員に対してには特別の機会を持ちたいと思っている。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、言葉での虐待防止も、常に職員会議での重要課題と位置づけ、適切な言葉使いをするよう指導している。	○	言葉使いを特に注意するよう、合同会議の時は常に申し伝えている。また方言の使用に際しても丁寧さを忘れないように伝えている。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をかけ十分な説明をし、後日いつでも質問等を受け付けることを伝えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の2ユニット合同話し合い(結の会) を毎月20日に開催し、利用者の思いを聴く 様、聴き取るように努めている。苦情など に関しては投書箱を設置している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	ゆり苑だよりを毎月発行し、写真などでひご ろの様子を家族へ送っている。また、職員手 書きのたよりを添えている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず、出勤職員との会話の時間を 頂き、日頃の様子を報告し、また家族の方か ら要望等を聴く様に心がけている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	月に1度、合同ミーティングを行い、職員の 意見を幅広く聴き、利用者に関する事、業務 に関する事などいろいろと話し合っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	花見や福祉センターでの家族会などの外出等 には職員の応援体制を組んだり、職員の確保 に努めている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には馴染める期間を設けている。また 離職による「置いていかれた」感を感じない よう他の職員で配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等の制限は設けていない。現職員に対しては、研修参加や、学校行事への参加、地域行事への参加が出来るよう配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修への積極的参加をよびかけているし、人権擁護に関する書物を揃えるなどしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自で研修する場を設けるのは難しいので、外部の研修を積極的に受けるよう声かけをしている。また受講希望者には研修を受けられるよう配慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会や、県グループホーム部会に出席して意見や情報を得ている。また他のグループホームからの見学や視察希望には快く応じている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1度の合同ミーティング終了後は、お茶の時間を設け和んだ雰囲気の中、何でもはなせる時間を作っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	将来役立つ資格を取得するように、また介護に役立つ情報獲得や研修を受講するよう働きかけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず、ご本人面談や家族面談を行い情報入手に努めている。またホーム見学をして頂き、入居時には対応した職員を出動させるなど見覚えの職員がいる安心感を提供している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム内外の見学を必ずして頂き、不安や希望等の話を伺い、納得して貰った上での入居決定をして頂けるように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと連携を取りながら、ご本人に一番良いと思われるサービスが提供できるよう、また他のサービスはどうかなど話し合いをしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談、見学、レクリエーション参加等で事業所に馴染んで頂き、尚、不安な方にはご家族に1週間ほど毎日でも面会をお願いし利用者の不安を取り除けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができる事があればして頂き、または一緒にするなど仲良く作業をし、そういう場を利用して利用者から料理法や仕事の話、して貰ってるという感謝を伝えている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支援するのは事業所、職員はもちろんであるがご家族の協力が必要不可欠であることを伝えているし、協力して貰っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の思い、利用者からの思いをたくさん聴く事で、ご家族の利用者に対する愛情、利用者からのご家族に対する愛情を伝えていくようにしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族了承の上で、友人・知人との面会、外出には積極的に支援するようにしている。利用者の中には週に1度の割合で外出される方もいる。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う利用者同士と一緒に会話が楽しめるよう座席など配慮している。また1人の時間を好まれる方には、1人の時間を持てるようにしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した場合は、病院が近いので用事や他の人のお見舞いに行った時などにお見舞いに伺っている。また死亡退去の場合は、近所付き合いがある職員もいるので、あいさつや事業所の近況など話す機会がある。		

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの境遇などの情報を把握し、利用者の希望、思いを汲み取ったケアを心がけている。また意思確認が分からないような利用者には、ご家族に協力してもらうこともある。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴はご家族に情報を頂き、全職員で周知・共有することでサービスの方向性に役立つようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者によって床そうじ、洗濯物干し、洗濯物たたみをお願いするなど出来ること、得意なことをして頂いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日常の言動、ご家族からの情報・意見を取り入れながら、全職員の観察意見も取り入れた介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行うのはもちろんであるが、ADL（日常生活動作）が急変した場合には、ご家族に連絡の上、状態に応じた計画を随時に、新たな計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成後は、1部はケース記録に綴じ職員が毎日でも見られるようにしている。変化があればそれにすぐ記入できるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院、利用者が自宅の法事に出るなどの外出の要望に対しては応じている。また終末期ケアについても希望があれば応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の立ち入り検査、ボランティアの受け入れ、民生委員との交流など協力をお願いしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居している場合、他のサービスを受けられないが、利用者が希望すれば他のサービスの紹介をしたり、地域の他のケアマネージャー・事業者との交流会には積極的に参加している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂けるように働きかけている。また地域包括支援センターの意見や見学には快く応じている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として医療連携をしている医院・病院があり定期的に往診を受けているが、利用者・ご家族が望めば今までのかかりつけ医を受診することもできる。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医はもちろんであるが、認知症外来や、心療内科への受診もご家族と相談しながら行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を職員として雇用しているが、連携医師の看護職員やかかりつけ医の看護職員にも助言を貰っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院からの情報は、電話連絡時や面会に伺った時に病院医師、看護師などから頂いて連携医師・かかりつけ医師と連絡を密にして早期退院に備えている。	○	最近では病院の方から連絡を貰う事が多くなった。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に詳しく説明をし、面会時にも求められれば説明をして早い時期からお話しをお聴きしている。またその事は職員、医師にも伝えている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として「できること・できないこと」は職員全員で話し合い、医師の指示の下で取り組んでいる。またご家族の意向が変化していないか何度も確認している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には今まで使用されていた布団や家具など持ち込んで貰い少しでも馴染みの環境を作れるようにしている。それでも不安感を持たれている利用者には面会をできるだけお願いをしている。他へ移った方には面会などを行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には、否定する言葉を言わないよう徹底している。また個人情報に関する誓約書を職員には提出させている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が「したい・したくない」という表現ができるような問いかけ、選択できるような質問をするようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ラジオ体操をしたくない人、外気浴をしたくない人、外出ドライブに行きたくない人などがあるので、その人の気持ちに沿った日の過ごし方を心がけている。	○	入浴したい人は毎日、したくない人は隔日と利用者本意で決められる。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の洋服はできるだけご本人に選んでもらっている。また訪問理容・美容を心待ちにしている人や、今までの店を利用する人も数名いる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ふきの皮むき、ジャガイモの皮むき、苑のえんどう豆やごぼうの下ごしらえなどを手伝って貰っている。利用者の方から手伝いたいと言ってもらえる事もあるので、喜んで手伝って貰っている。	○	食事の配膳など利用者の方に手伝って頂いている。また、職員と一緒に食事をしている。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は現在居ない。お酒はご家族と相談の上、自室で飲まれている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄チェック表を作り、全職員が個人のリズムに合わせた声かけをしている。	○	昼間はリハビリパンツ、夜のみオムツにするようにして昼間はトイレ誘導を心がけている。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後を設定しているが、毎日入浴される方、隔日入浴などしているが殆どの利用者が毎日のように入浴している。また時間的にはゆったりとした時間を心がけている。	○	便失禁等の場合は入浴を促し、清拭をするなどしている。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間はなるべくお手伝いや散歩・日光浴などにお誘いし、心地よい疲れ、入眠を促している。	○	夜間21:00~朝5:00には照明を落とし昼夜の区別を認知して頂けるように努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁の使える人には料理の手伝いを、お花の好きな人は水遣り、生け花など、元気に歩ける人はモップのお手伝いなどその人なりのお手伝いをお願いしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、本人の好きな物を買ったり、自分の行きなれた床屋さんに行き支払いをするなどの場を作っている。	○	管理できない利用者は小口現金を預かり、小遣い帳を作成、家族のサインを頂いている。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所全体の花見、ドライブ等のお出かけの他、個々の外気浴などには許せる限り支援しているし、家族・知人との外出には喜んで支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きつけの床屋さんへの送迎、自宅への付き添い散歩、結の会で希望が出た場合は出かけられる様計画を立てて機会を作っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい人には職員が取り次ぎ、家族への連絡は自由に出来るよう支援をしている。	○	携帯電話を持っている利用者もいる。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ご家族（特にキーパーソン）の了解の下なるべく多くの方の面会や一緒にお出かけを支援、協力している。訪問時間の制限はない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止については、何度も職員間で話し合い、確認し、拘束しないケアをしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的には鍵をかけないようにしている。 (夜間は防犯のため施錠している)		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にはノックを、いない場合にも了解を得てから入室し、職員は必ずリビングに居るようにしてさりげなく見守りをするなど安全を徹底している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は職員のみが分かる所に薬棚を設け管理徹底を図っている。包丁などは本数確認をするなど徹底している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットは全職員が確認共有し、再発防止を話し合っている。また転倒、すりきず等の原因をできるだけ無くせるよう話し合っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の力を借りて救命救護の研修を年1度事業所で行い、市による研修にも参加するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練、避難訓練は毎年2度行っている。緊急時や災害時の避難経路、避難場所の確認、確保している。	○	ご近所や隣組との合同訓練がなかなか実施できないので、これからの課題として、取り組んでいきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に詳しく説明をし、また随時面会時にも家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック記帳により、より早く体調変化の発見に努め、気付いた際には連携医への連絡、指示を仰ぐ等している。また職員は日々の申し送りや情報の共有・継承を図っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員が保管し、服薬確認をしている。利用者の様子、変化を見守り異変があれば直ちに医師へ連絡、指示を仰いでいる。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表、水分摂取チェック表等により便秘を予防している。水分摂取の少ない方には好物の飲み物に変えるなどの工夫もしている。また歩行をして貰うなどの工夫もしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行なうようにしている。利用者の状態に合わせ、声かけをし、口腔ケアチェック表に記帳し、補助的介助を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉食を購入している。水分量にはチェック表に記帳し、注意している。管理栄養士を採用したので活用したい。出来るだけ本人が食べられるよう配慮している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り、それに沿って実行している。また毎月、職員の検便も実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材配達後すぐに冷蔵庫に保管している。また調理器具はもちろん冷蔵庫の衛生管理も担当を決めチェックするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花や植栽を飾り、利用者、ご家族、面会人、ご近所の方など楽しめるよう努力している。また畑を設け季節によっては収穫の楽しみも提供している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者全員で作った作品(季節に合ったもの)や写真を飾って季節感を出している。太陽が強くなる夏場には朝顔のグリーンカーテンを作り、涼しさを目からも感じられるようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに1人で座ったり、ソファに2,3人で座ったりとくつろげるように配慮している。冬には畳室にこたつを出し、好きな場所で好きな人同士がくつろげるような空間を提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳を敷いたり、フローリングにしたりと自由に選べるようになっている。利用者に合った環境作りをしてもらい、家具、布団等は使い慣れた自分の物を持ち込んで貰い個人の好みで配置できるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には特に気を配り、臭いがこもらないように配慮している。職員全員で状況に応じた窓明けや、温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくした構造になっており、廊下、トイレなどには手すりを設け、死角をなくし、自由に歩行訓練や居室からの出入りができるようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口に表札を貼り、利用者が自分の部屋の認識を持てるようにしている。トイレ、風呂の表示も大きくし利用者が分かるようにしている。	○	個人情報のこともあり、表札をするか止めるか話し合っている。入居者の為にはした方が良いのだが。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴が自由にできる様テラスを設け、冬は日光浴、夏は涼しい時間帯には外気浴・日光浴が出来るようになっている。また、職員もそれとなく促している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆり苑には「三ゆり運動」(ゆとり、ゆったり、ゆっくり)という言葉があります。施設という意識ではなく、家庭ではないが、擬似家庭を目指して日々努力しております。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者が尊厳を保ちゆとりを持って、ゆったり・ゆっくと生活をおくれるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、フロアリビング、休憩室等に理念や理念言葉を貼りいつも職員の眼に入るようにし、常に心するようになっている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月発行の「ゆり苑だより」に記載して、事業所での様子と共に、事業所の理念を知って頂けるよう努力している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣組の道路愛護や地域の会合に参加し、地域の情報を教えて貰っている。近所の子供たちが事業所前道路にてボール遊びをしたり、日頃から子供たちの声が聞こえる環境である。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	道路愛護の草取りには積極的に参加している。また近所、地元の人にお世話になっていると感じることも多い。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中でいつも市役所や地域代表の方に協力できる事があれば、と話している。	○	もしもの時の非難場所として利用して頂けるよう近所・隣組に周知したい。(今までもお知らせしているのだが…)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価発表後は、評価全体を全員で、カンファレンス時に再度話し合い、改善点があればすぐに取り組み、改善結果の検証をしている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議では、事業所の問題点を話し、出席委員の意見を伺っている。即時に解決出来ない事は出来得る限り早急に対応している。貴重な意見や質問はサービス向上には不可欠と考えている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	うきはブロックグループホーム部会には必ず出席し、市役所の要望、意見を聞きサービスに反映するようにしている。また事業所からの質問等もしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修機会があれば必ず出席している。職員にはカンファレンス等で伝えている。	○	現在、成年後見制度利用の利用者がいるが、新人職員に対してには特別の機会を持ちたいと思っている。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、言葉での虐待防止も、常に職員会議での重要課題と位置づけ、適切な言葉使いをするよう指導している。職員間でも意識を高め、注意しあっている。	○	言葉使いを特に注意するよう、合同会議の時は常に申し伝えている。また方言の使用に際しても丁寧さを忘れないように伝えている。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をかけ十分な説明をし、後日いつでも質問等を受け付けることを伝えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の合同話し合い(結の会)を毎月開催し、利用者の思いを聴き取るように努めている。苦情などに関しては投書箱を設置している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	ゆり苑だよりを毎月発行し、写真などで日頃の様子を家族へ送っている。また、職員手書きのたよりを添えている。面会の時も話すように心がけている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず、出勤職員との会話の時間を頂き、日頃の様子を報告し、また家族の方からも要望等を聞く様に心がけている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	月に1度、合同ミーティングを行い、職員の意見を幅広く聞き、利用者に関する事、業務に関する事などいろいろと話し合っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	花見や福祉センターでの家族会などの外出等には職員の応援体制を組んだり、職員の確保に努めている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員はきちんと認識するまで紹介をするようにしている。職員異動時には馴染める期間を設けている。また離職による「置いていかれた」感を感じないよう他の職員で配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等の制限は設けていない。現職員に対しては、それぞれの委員会に所属してもらい能力發揮の場を作っている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修への積極的参加をよびかけローテーションも配慮している。人権擁護に関する書物を揃えるなどしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自で研修する場を設けるのは難しいので、外部の研修を積極的に受けるよう声かけをしている。また受講希望者には研修を受けられるよう配慮している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム部会や、県グループホーム部会に出席して意見や情報を得ている。	○	市内の他のグループホームへ見学に行ったり職員交流を図りたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1度の合同ミーティング終了後は、お茶の時間を設け、何でも話せるように取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	将来役立つ資格を取得するように、また介護に役立つ情報獲得や研修を受講するよう働きかけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず、ご本人面談や家族面談を行い情報入手に努めている。また事業所見学をして頂き、入居時には対応した職員を出勤させるなど見覚えの職員がいる安心感を提供している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事業所内外の見学を必ずして頂き、本人・家族が求めている事を理解把握して事業所としてどれだけ対応できるか話し合っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと連携を取りながら、主治医や連携医師の診断を仰ぎグループホーム対応が良いのか、他のサービス利用が良いのか話し合うように努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談、見学、レクリエーション参加等で事業所に馴染んで頂けるように。また体験入居をしてもらう事もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である、できる事があればして頂き、または一緒にするなど介護する意識を持たず、仲良く作業をし、そういう場を利用して利用者から料理法や仕事の話、して貰ってるという感謝を伝えるようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支援するのは事業所、職員はもちろんであるがご家族の協力が必要不可欠であることを伝え、共に支えているという事をお話ししている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の思い、利用者からの思いをたくさん聞く事で、ご家族の入居者に対する愛情、利用者からのご家族に対する愛情を伝えていくようにしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族了承の上で、友人・知人との面会、外出には積極的に支援するようにしている。利用者の中には週に1度の割合で外出される方もいる。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う利用者同士と一緒に会話が楽しめるよう座席など配慮している。また1人の時間を好まれる方には、1人の時間を持てるようにしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した場合は、病院が近いので用事や他の人のお見舞いに行った時などにお見舞いに伺っている。また死亡退去の場合は、近所付き合いがある職員もいるので、あいさつや事業所の近況など話す機会がある。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの境遇などの情報を把握し、利用者の希望、思いを汲み取ったケアを心がけている。また意思確認が分からないような利用者には、ご家族に協力してもらうこともある。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴はご家族に情報を頂き、職員全員で周知・共有することでサービスの方向性に役立つようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりに出来る事や楽しい事をして頂くようにして、状態の変化に従って変更している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日常の言動、ご家族からの情報・意見を取り入れながら、職員全員の観察意見も取り入れた介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行うのはもちろんであるが、ADL（日常生活動作）が急変した場合には、ご家族に連絡の上、状態に応じた計画を随時に、新たな計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に毎日の様子や出来事、言葉などを記録して、職員が確認することで情報の共有をし、次の計画作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院、利用者が自宅の法事に出るなどの外出の要望に対しては応じている。また終末期ケアについても希望があれば応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の立ち入り検査、ボランティアの受け入れ、民生委員との交流など協力をお願いしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居している場合、他のサービスを受けられないが、利用者が希望すれば他のサービスの紹介をしたり、地域の他のケアマネージャー・事業者との交流会には積極的に参加し情報を得ている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂けるように働きかけている。また地域包括支援センターの意見や見学には快く応じている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として医療連携をしている医院・病院があり定期的に往診を受けているが、利用者・ご家族が望めば今までのかかりつけ医を受診することもできる。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医はもちろんであるが、認知症外来や、心療内科への受診もご家族と相談しながら行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を職員として雇用しているが、連携医師の看護職員やかかりつけ医の看護職員にも助言を貰っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院からの情報は、電話連絡時や面会に伺った時に病院医師、看護師などから頂いて連携医師・かかりつけ医師と連絡を密にして早期退院に備えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に詳しく説明をし、面会時にも求められれば説明をして早い時期からお話しをお聞きしている。またその事は職員、医師にも伝えている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として「できること・できないこと」は職員全員で話し合い、医師の指示の下で取り組んでいる。またご家族の意向が変化していないか何度も確認している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には今まで使用されていた布団や家具など持ち込んで貰い少しでも馴染みの環境を作れるようにしている。それでも不安感を持たれている利用者には面会をできるだけお願いをしている。他へ移った方には面会などを行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には、否定する言葉を言わないよう徹底している。また個人情報に関する誓約書を職員には提出させている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が「したい・したくない」という表現ができるような問いかけ、選択できるような質問をするようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ラジオ体操をしたくない人、外気浴をしたくない人、外出ドライブに行きたくない人などいるので、その人の気持ちに沿った日の過ごし方を心がけている。	○	入浴したい人は毎日、したくない人は隔日と利用者本意で決められる。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日の洋服はできるだけご本人に選んでもらっている。また訪問理容・美容を心待ちにしている人や、今までの店を利用する人も数名いる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ふきの皮むき、ジャガイモの皮むき、事業所のえんどう豆やごぼうの下ごしらえなどを手伝って貰っている。利用者の方から手伝いたいと言ってもらえる事もあるので、喜んで手伝って貰っている。	○	食事の配膳など利用者の方に手伝って頂いている。また職員と一緒に食事をしている。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は現在居ない。おやつは好みを把握し、できるだけ手作りを心がけている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄チェック表を作り、全職員が個人のリズムに合わせた声かけ、さり気ない声かけをしている。	○	昼間はリハビリパンツ、夜のみオムツにするようにして昼間はトイレ誘導を心がけている。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最初の声かけで拒否があれば時間をおいてもう一度声かけをするなどタイミングをみる。入浴時にはゆっくりできるように配慮している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中になるべくお手伝いや散歩・日光浴などにお誘いし、体内時計のリセットを図り、入眠ができるよう配慮している。	○	夜間21:00~朝5:00には照明を落とし昼夜の区別を認知して頂けるように努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁の使える人には料理の手伝いを、お花の好きな人は水遣り、生け花など、元気に歩ける人はモップのお手伝いなどとその人なりのお手伝いをお願いしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、本人の好きな物を買ったり、自分の行きなれた床屋さんに行き支払いをするなどの場を作っている。	○	管理できない利用者は小口現金を預かり、小遣い帳を作成、家族のサインを頂いている。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所全体の花見、ドライブ等のお出かけの他、個々の外気浴などには許せる限り支援しているし、家族・知人との外出には喜んで支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きつけの床屋さんへの送迎、自宅への付き添い散歩、結の会で希望が出た場合は出かけられる様計画を立て弁当持参の遠出をしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい人には職員が取り次ぎ、家族への連絡は自由にできる様などの支援をしている。	○	携帯電話を持っている利用者もいる。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ご家族（特にキーパーソン）の了解の下なるべく多くの方の面会や一緒にお出かけを支援、協力している。訪問時間の制限はしていないので都合の良い時に来てもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止については、何度も職員間で話し合い、確認し、拘束しないケアをしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的には鍵をかけないようにしている。 (夜間は防犯のため施錠している)		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にはノックを、いない場合にも了解を得てから入室し、職員は必ずリビングに居るようにしてさりげなく見守りをするなど安全を徹底している。	○	夜間は2時間毎の見回りで安全確認をしている。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、危険物をすべて取り除くのではなく、職員の管理ができる所、見えない所に保管など工夫している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットは全職員が確認共有し、再発防止を話し合っている。また転倒、すりきず等の原因をできるだけ無くせるよう話し合っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の力を借りて救命救護の研修を年1度事業所で行い、市による研修にも参加するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練、避難訓練は毎年2度行っている。緊急時や災害時の避難経路、避難場所の確認、確保している。	○	ご近所や隣組との合同訓練がなかなか実施できないので、これからの課題として、取り組んでいきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に詳しく説明をし、また随時面会時にも家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック記帳により、より早く体調変化の発見に努め、気付いた際には連携医への連絡、指示を仰ぐ等している。また職員は日々の申し送りや情報の共有・継承を図っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員が保管し、服薬確認をしている。利用者の様子、変化を見守り異変があれば直ちに医師へ連絡、指示を仰いでいる。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表、水分摂取チェック表等により便秘を予防している。水分摂取の少ない方には好物の飲み物に変えるなどの工夫もしている。また歩行をして貰うなどの工夫もしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ、介助を行うようにしている。週に一度は義歯の洗浄液に浸け置き洗いをしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉食を購入している。水分量にはチェック表に記帳し、注意している。管理栄養士を採用したので活用したい。出来るだけ本人が食べられるよう配慮している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り、それに沿って実行している。また毎月、職員の検便も実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材配達後すぐに冷蔵庫に保管している。また調理器具は漂白、熱殺菌などを行っている。冷蔵庫内も衛生チェックするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花や植栽を飾り、明るい感じを演出するよう努力している。また畑を設け季節によっては収穫の楽しみも提供している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者全員で作った作品(季節に合ったもの)や写真を毎月飾り直している。入浴時にはゆず湯などの季節感を感じられるようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、冬には畳室にこたつ、テラスにはベンチを設け、好きな場所で好きな人同士、又は1人でくつろげるような空間を確保している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳を敷いたり、フローリングにしたりと自由に選べるようになっている。利用者には合った環境作りをしてもらい、家具、布団等は使い慣れた自分の物を持ち込んで貰い個人の好みに配置できるようにしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には特に気を配り、臭いがこもらないように配慮している。温度計、湿度計の設置をし職員全員で状況に応じた窓開けや、温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくした構造になっており、廊下、トイレなどには手すりを設け、死角をなくし、自由に歩行訓練や居室からの出入りができるようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口に表札を貼り、利用者が自分の部屋の認識を持てるようにしている。トイレ、風呂の表示も大きくし利用者が分かるようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴が自由にできる様テラスを設け、冬は日光浴、夏は涼しい時間帯には外気浴・日光浴が出来るようになっている。また、職員もそれとなく促している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆり苑には「三ゆり運動」(ゆとり、ゆったり、ゆっくり)という言葉があります。施設という意識ではなく、家庭ではないが、擬似家庭を目指して日々努力しております。